

## 2024 年度浜松医科大学医学部附属病院皮膚科研修プログラム

### A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

### B. プログラムの概要：

本プログラムは浜松医科大学医学部附属病院皮膚科を研修基幹施設として、聖隷三方原病院、浜松医療センター、聖隷浜松病院、磐田市立総合病院、中東遠総合医療センター、島田市立総合医療センター、藤枝市立総合病院、静岡県立総合病院、静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、静岡市立清水病院、富士宮市立病院、富士市立中央病院、沼津市立病院、静岡医療センター、杏林大学医学部付属病院、京都大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院、東京女子医科大学病院、近畿大学病院、洛和会音羽病院、大阪府済生会野江病院、京都社会事業財団 京都桂病院、京都医療センター、田附興風会医学研究所北野病院、医療法人医仁会武田総合病院、大阪府済生会中津病院、十条武田リハビリテーション病院、高槻赤十字病院、大津赤十字病院、長浜赤十字病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、宇治武田病院、日本赤十字社和歌山医療センター、滋賀県立総合病院、JCHO 星ヶ丘医療センターを研修連携施設とし、また、JA 静岡厚生連 遠州病院、北山武田病院、公立豊岡病院、京都きづ川病院、赤穂市民病院、康生会武田病院、宇治徳洲会病院、関西電力病院、福井赤十字病院、洛西ニュータウン病院、三菱京都病院、国家公務員共済組合連合会枚方公済病院を研修準連携施設とした研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

### C. 研修体制：

研修基幹施設：浜松医科大学医学部附属病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：本田哲也（診療科長）

専門領域：皮膚免疫・炎症・アレルギー、  
アトピー性皮膚炎、乾癬

指導医：伊藤泰介 専門領域：脱毛症、皮膚アレルギー、爪白癬

指導医：藤山俊晴 専門領域：皮膚科一般、薬疹、乾癬、アトピー性皮膚炎

指導医：島内隆寿 専門領域：皮膚科一般、皮膚リンパ腫、皮膚腫瘍

指導医：坂本慶子 専門領域：皮膚科一般、皮膚免疫、瘢痕性脱毛症  
指導医：栗原和生 専門領域：皮膚科一般、乾癬、皮膚アレルギー  
指導医：影山玲子 専門領域：皮膚科一般、汗腺疾患、付属器疾患  
指導医：福地健祐 専門領域：皮膚科一般、悪性腫瘍

施設特徴：専門外来として、アトピー性皮膚炎外来、乾癬外来、脱毛症外来、皮膚リンフォーマ外来を設けており、外来患者数は一日平均 90 名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能である。また、入院患者は悪性黒色腫や皮膚リンパ腫、汗腺疾患、円形脱毛症など様々な疾患について積極的な治療を行っている。指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。また多数の臨床治験を行い、将来の皮膚科診療の発展に寄与している。

研修連携施設：聖隷三方原病院皮膚科

所在地：静岡県浜松市北区三方原町 3453 番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：大場 操（部長）

研修連携施設：浜松医療センター皮膚科

所在地：静岡県浜松市中区富塚町 328 番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：三澤淳子（部長）

研修連携施設：聖隷浜松病院皮膚科

所在地：静岡県浜松市中区住吉一丁目 12 番 12 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：小粥雅明（部長）

研修連携施設：磐田市立総合病院皮膚科

所在地：静岡県磐田市大久保 512 番地 3

プログラム連携施設担当者（指導医）：橋爪秀夫（副院長兼皮膚科部長）

研修連携施設：中東遠総合医療センター皮膚科・皮膚腫瘍科

所在地：静岡県掛川市菖蒲ヶ池 1 番地の 1

プログラム連携施設担当者（指導医）：戸倉新樹（診療部長）

指導医：大塚正樹

研修連携施設：島田市立総合医療センター皮膚科

所在地：静岡県島田市野田 1200 番地 5

プログラム連携施設担当者（指導医）：鹿毛勇太（医長）

研修連携施設：藤枝市立総合病院皮膚科

所在地：静岡県藤枝市駿河台四丁目1番11号

プログラム連携施設担当者（指導医）：矢田貝剛（科長）

指導医：星野友美

研修連携施設：静岡県立総合病院皮膚科

所在地：静岡県静岡市葵区北安東四丁目27番1号

プログラム連携施設担当者（指導医）：八木宏明（部長）

指導医：佐野悠子、増田百合香

研修連携施設：静岡市立静岡病院皮膚科

所在地：静岡県静岡市葵区追手町10番93号

プログラム連携施設担当者（指導医）：森木 睦（主任科長）

研修連携施設：静岡済生会総合病院皮膚科

所在地：静岡県静岡市駿河区小鹿一丁目1番1号

プログラム連携施設担当者（指導医）：松本賢太郎（部長）

指導医：嶋津苗胤、岩田和子

研修連携施設：静岡市立清水病院皮膚科

所在地：静岡県静岡市清水区宮加三1231

プログラム連携施設担当者（指導医）：八代 聖（医長）

指導医：熊谷宣子

研修連携施設：富士宮市立病院皮膚科

所在地：静岡県富士宮市錦町3番1号

プログラム連携施設担当者（指導医）：中澤慎介（科長）

研修連携施設：富士市立中央病院皮膚科

所在地：静岡県富士市高島町50番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：津嶋友央（部長）

研修連携施設：沼津市立病院皮膚科

所在地：静岡県沼津市東椎路字春ノ木550

プログラム連携施設担当者（指導医）：秦 まき（部長）

研修連携施設：静岡医療センター皮膚科

所在地：静岡県駿東郡清水町長沢 762-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：杉山由華（部長）

研修連携施設：杏林大学医学部附属病院皮膚科

所在地：東京都三鷹市新川 6-20-2

プログラム連携施設担当者（指導医）：大山 学（診療科長）

研修連携施設：京都大学医学部附属病院皮膚科

所在地：京都市左京区聖護院川原町 54

プログラム連携施設担当者（指導医）：椛島健治（診療科長）

研修連携施設：横浜市立大学附属病院皮膚科

所在地：神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9

プログラム連携施設担当者（指導医）：山口由衣（診療科長）

研修連携施設：東京女子医科大学病院皮膚科

所在地：東京都新宿区河田町 8-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：石黒直子（診療科長）

研修連携施設：近畿大学病院皮膚科

所在地：大阪府大阪狭山市大野東 377-2

プログラム連携施設担当者（指導医）：大塚篤司（診療科長）

研修連携施設：洛和会音羽病院皮膚科

所在地：京都府京都市山科区音羽珍事町 2

プログラム連携施設担当者（指導医）：清水平ちひろ（診療部長）

研修連携施設：社会福祉法人恩師財団大阪府済生会野江病院皮膚科

所在地：大阪市城東区今福 1 丁目 3 番 25 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：櫻井弓子（医長）

研修連携施設：社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院皮膚科

所在地：京都府京都市西京区山田平尾町 17

プログラム連携施設担当者（指導医）：石川牧子（診療部長）

研修連携施設：京都医療センター皮膚科

所在地：京都市伏見区深草向畑町 1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：十一英子（診療科長）

研修連携施設：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院皮膚科

所在地：大阪市北区扇町 2 丁目 4 番 20 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉川義顯（主任部長）

研修連携施設：医療法人医仁会武田総合病院皮膚科

所在地：京都市伏見区石田森南町 28 番地 1

プログラム連携施設担当者（指導医）：松井美萌（診療部長）

研修連携施設：大阪府済生会中津病院皮膚科

所在地：大阪市北区芝田 2-10-39

プログラム連携施設担当者（指導医）：荒井利恵（診療部長）

研修連携施設：十条武田リハビリテーション病院皮膚科

所在地：京都市南区吉祥院八反田町 32

プログラム連携施設担当者（指導医）：米田耕造（部長）

研修連携施設：高槻赤十字病院

所在地：大阪府高槻市阿武野 1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：古川福実（名誉院長・顧問）

研修連携施設：大津赤十字病院皮膚科

所在地：滋賀県大津市長等 1 丁目 1-35

プログラム連携施設担当者（指導医）：笹橋真紀子（副部長）

研修連携施設：長浜赤十字病院皮膚科

所在地：滋賀県長浜市宮前町 14-7

プログラム連携施設担当者（指導医）：川端紀子（診療部長）

研修連携施設：兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科

所在地：兵庫県尼崎市東難波町二丁目 17 番 77 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：工藤比等志（科長）

研修連携施設：宇治武田病院

所在地：京都府宇治市宇治里尻 36-26

プログラム連携施設担当者（指導医）：小畠綾子（部長）

研修連携施設：日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科

所在地：和歌山県和歌山市小松原通 4-20

プログラム連携施設担当者（指導医）：米井 希（部長）

研修連携施設：滋賀県立総合病院皮膚科

所在地：滋賀県守山市守山 5 丁目 4 番 30 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：中川雄仁（診療部長）

研修連携施設：JCHO 星ヶ丘医療センター皮膚科

所在地：大阪府枚方市星丘 4-8-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：立花隆夫（部長）

研修準連携施設：JA 静岡厚生連 遠州病院皮膚科

所在地：静岡県浜松市中区中央一丁目 1 番 1 号

研修準連携施設：北山武田病院皮膚科

所在地：京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町 99 番地

研修準連携施設：公立豊岡病院皮膚科

所在地：兵庫県豊岡市戸牧 1094

研修準連携施設：京都きづ川病院皮膚科

所在地：京都府城陽市平川西六反 26-1

研修準連携施設：赤穂市民病院皮膚科

所在地：兵庫県赤穂市中広 1090 番地

研修準連携施設：医療法人財団康生会武田病院皮膚科

所在地：京都府京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町 841-5

研修準連携施設：宇治徳洲会病院皮膚科  
所在地：京都府宇治市槇島町石橋 145 番

研修準連携施設：関西電力病院皮膚科  
所在地：大阪市福島区福島 2-1-7

研修準連携施設：福井赤十字病院皮膚科  
所在地：福井県福井市月見町 2-4-1

研修準連携施設：洛西ニュータウン病院皮膚科  
所在地：京都府京都市西京区大枝東新林町 3 丁目 6 番地

研修準連携施設：三菱京都病院皮膚科  
所在地：京都市西京区桂御所町 1

研修準連携施設：国家公務員共済組合連合会枚方公済病院皮膚科  
所在地：大阪府枚方市藤阪東町 1-2-1

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

#### 研修管理委員会委員

委員長：本田哲也（浜松医科大学医学部附属病院皮膚科長）  
委員：伊藤泰介（浜松医科大学医学部附属病院皮膚科副科長）  
：藤山俊晴（浜松医科大学医学部附属病院皮膚科講師）  
：島内隆寿（浜松医科大学医学部附属病院皮膚科講師）  
：大場 操（聖隷三方原病院皮膚科部長）  
：三澤淳子（浜松医療センター皮膚科部長）  
：小粥雅明（聖隷浜松病院皮膚科部長）  
：橋爪秀夫（磐田市立総合病院副院長兼皮膚科部長）  
：戸倉新樹（中東遠総合医療センター皮膚科・皮膚腫瘍科診療部長）

- : 鹿毛勇太 (島田市総合医療センター皮膚科医長)
- : 矢田貝剛 (藤枝市立総合病院皮膚科科長)
- : 八木宏明 (静岡県立総合病院皮膚科部長)
- : 森木 睦 (静岡市立静岡病院皮膚科主任科長)
- : 松本賢太郎 (静岡済生会総合病院皮膚科部長)
- : 八代 聖 (静岡市立清水病院皮膚科医長)
- : 中澤慎介 (富士宮市立病院皮膚科科長)
- : 津嶋友央 (富士市立中央病院皮膚科部長)
- : 秦 まき (沼津市立病院皮膚科部長)
- : 杉山由華 (静岡医療センター皮膚科部長)
- : 大山 学 (杏林大学医学部附属病院皮膚科診療科長)
- : 椛島健治 (京都大学医学部附属病院皮膚科診療科長)
- : 山口由衣 (横浜市立大学附属病院皮膚科診療科長)
- : 石黒尚子 (東京女子医科大学病院皮膚科診療科長)
- : 大塚篤司 (近畿大学病院皮膚科診療科長)
- : 江川形平 (京都大学病院皮膚科講師)
- : 中溝 聡 (京都大学病院皮膚科特定講師)
- : 野村尚史 (京都大学病院皮膚科特定准教授)
- : 清水平ちひろ (洛和会音羽病院皮膚科診療部長)
- : 櫻井弓子 (大阪府済生会野江病院皮膚科医長)
- : 石川牧子 (京都社会事業財団 京都桂病院皮膚科診療部長)
- : 十一英子 (京都医療センター皮膚科診療科長)
- : 吉川義顯 (医学研究所北野病院皮膚科主任部長)
- : 松井美萌 (医仁会武田総合病院皮膚科診療部長)
- : 荒井利恵 (大阪府済生会中津病院皮膚科診療部長)
- : 米田耕造 (十条武田リハビリテーション病院皮膚科部長)
- : 古川福実 (高槻赤十字病院皮膚科名誉院長・顧問)
- : 笹橋真紀子 (大津赤十字病院皮膚科副部長)
- : 川端紀子 (長浜赤十字病院皮膚科診療部長)
- : 工藤比等志 (兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科科長)
- : 小畷綾子 (宇治武田病院皮膚科部長)
- : 米井 希 (日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科部長)
- : 中川雄仁 (滋賀県立総合病院皮膚科診療部長)
- : 立花隆夫 (星ヶ丘医療センター皮膚科部長)
- : 石原靖乃 (浜松医科大学医学部附属病院東7階病棟師長)

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年間手術数	指導医数
浜松医科大学医学部附属病院	98.1	10.6	579	2	8
聖隷三方原病院	40.1	2.6	283	0	1
浜松医療センター	37.6	3	212	0	1
聖隷浜松病院	40.4	0	176	0	1
磐田市立総合病院	49.2	6.0	294	0	1
中東遠総合医療センター	68.8	6.7	725	54	2
島田市立総合医療センター	48.6	3.2	290	4	1
藤枝市立総合病院	40.1	4.4	199	0	2
静岡県立総合病院	80.3	7.3	752	0	3
静岡市立静岡病院	50.8	3	370	0	1
静岡済生会総合病院	43.3	4.0	288	1	3
静岡市立清水病院	61.0	7.0	529	31	2
富士宮市立病院	43	4.5	367	2	1
富士市立中央病院	40.8	0.8	240	0	1
沼津市立病院	59.8	5.5	220	0	1
静岡医療センター	41.4	2.2	154	0	1
杏林大学医学部附属病院	114.1	8.7	775	9	7
京都大学医学部附属病院	107.5	16.4	208	98	10
横浜市立大学医学部附属病院	78.8	12.0	649	89	6
東京女子医科大学病院	94.5	6.6	333	1	8
近畿大学病院	112	17	434	47	5
洛和会音羽病院	45.8	0.2	170	0	2
大阪府済生会野江病院	36.3	1.9	194	0	1
京都桂病院	31.5	2.3	186	0	1
京都医療センター	56.2	3.1	256	0	1
医学研究所北野病院	55	3	408	0	3
医仁会武田総合病院	55	4	264	2	2

大阪府済生会中津病院	60	1	327	0	2
十条武田リハビリテーション病院	14	1.8	38	0	1
高槻赤十字病院	36.3	1.6	153	0	2
大津赤十字病院	45.4	2.2	148	0	1
長浜赤十字病院	38.9	2.6	225	0	1
兵庫県立尼崎総合医療センター	55.3	4.4	451	0	2
宇治武田病院	42.3	1.38	81	0	1
和歌山医療センター	55	3.8	419	0	2
滋賀県立総合病院	21.3	1.2	265	0	1
星ヶ丘医療センター	34	3.6	130	17	1
合計	2032.5	169.58	11792	357	90

#### D. 募集定員：11人

通常プログラム：11名

#### E. 研修応募者の選考方法：

書類審査、小論文および面接により決定（浜松医科大学医学部皮膚科学講座のホームページ等で公表する）。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を浜松医科大学医学部皮膚科学講座のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

#### F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（[hifu-senmon@dermatol.or.jp](mailto:hifu-senmon@dermatol.or.jp)）に通知すること。

#### G. 研修プログラム 問い合わせ先

浜松医科大学医学部附属病院皮膚科

本田哲也

TEL：053-435-2303

FAX：053-435-2368

#### H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別

冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

### I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 浜松医科大学医学部附属病院皮膚科、杏林大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院、東京女子医科大学病院、近畿大学病院では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 聖隷三方原病院、浜松医療センター、聖隷浜松病院、磐田市立総合病院、中東遠総合医療センター、島田市立総合医療センター、藤枝市立総合病院、静岡県立総合病院、静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、静岡市立清水病院、富士宮市立病院、富士市立中央病院、沼津市立病院、静岡医療センター、洛和会音羽病院、大阪府済生会野江病院、京都桂病院、京都医療センター、医学研究所北野病院、医仁会武田総合病院、大阪府済生会中津病院、十条武田リハビリテーション病院、高槻赤十字病院、大津赤十字病院、長浜赤十字病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、宇治武田病院、和歌山医療センター、滋賀県立総合病院、JCHO 星ヶ丘医療センターでは、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、浜松医科大学医学部附属病院皮膚科の研修を補完する。
3. 準連携施設では指導医不在のため最長2年間の研修を行う可能性がある。

### J. 研修内容について

#### 1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	連携	連携	連携	連携
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	基幹	連携	連携	基幹	基幹
d	連携	連携	基幹	基幹	連携

e	連携	基幹	基幹	連携	連携
f	連携	連携	連携	連携	基幹
g	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
h	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

- a : ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- b : 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが、諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。
- c : 研修基幹施設を中心に研修を行うコース。1 年目に基幹施設で研修し、連携施設を経験した後に 4、5 年目に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。
- d : 研修 3、4 年目に基幹病院で研修し、再び連携施設に戻って研修するコース。
- e : 研修 2、3 年目に基幹病院で研修し、再び連携施設に戻って研修するコース。
- f : 連携施設を中心に研修を行うコース。4 年間連携施設で研修し、5 年目に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。
- g : 研修前半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的なコース。
- h : 専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を 5 年間持続する必要がある。特に 4 年目、5 年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

## 2. 研修方法

### 1) 主研修施設

#### 浜松医科大学医学部附属病院皮膚科

外来 : 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟 : 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の皮膚病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。また研究カンファレンスにも参加し、症例研究などを報告する。

皮膚科学会主催の必須の講習会を計画的に受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以

上筆頭著者で論文（出来れば国際学術誌に）を掲載されることを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 回診 カンファレンス	病棟 手術	病棟 手術 病理		

2) 連携施設

**聖隷三方原病院皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、多数の疾患の診断、治療、処置、手術法そして第一線の救急医療を習得する。浜松医科大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来	病棟 手術	病棟 検査 褥瘡カン ファレンス	病棟 外来	病棟 カンファレンス		

※夜間は救急部からの依頼に応じて適宜診察

**浜松医療センター病院皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟 検査・ 手術	病棟 検査・ 手術	病棟 検査・ 手術	病棟 検査・ 手術 カンファレンス	病棟 検査・ 手術		
----	-----------------	-----------------	-----------------	----------------------------	-----------------	--	--

※夜間は救急部からの依頼に応じて適宜診察

#### 聖隷浜松病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 病理組織 検討会	自己研鑽	外来/褥 瘡回診 (第2週)	外来	外来	当直*	

※宿直は1～2回/月を予定

#### 磐田市立総合病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。浜松医科大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術 カンファレンス	病棟	病棟 外来 カンファレンス	病棟	病棟 手術	宿直*	

※宿直は1～2回/月を予定

**中東遠総合医療センター皮膚科・皮膚腫瘍科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。週1回の手術症例を含めた症例カンファレンス、月1回の皮膚病理専門医を交えた病理カンファレンスに参加し学習する。また、浜松医科大学医学部皮膚科の症例検討会にも積極的に参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術	外来 手術		
午後	病棟 手術	病棟 手術 カンファレンス	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	宿直*	

※宿直は2回/月を予定

**島田市立総合医療センター皮膚科：**

指導医の下、地域中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科病理スライドカンファレンスに月1回以上参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査・手術	病棟 検査・手術	病棟 検査・手術	病棟 褥瘡回診	病棟 カンファ レンス	宿直*	

※宿直は2～3回/月を予定

**藤枝市立総合病院皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手

術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査・手術	病棟 検査・手術	病棟 検査・手術 カンファレンス	病棟 検査・手術	病棟 検査・手術 褥瘡回診		

※夜間は救急部からの依頼に応じて適宜診察

**静岡県立総合病院皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。院内臨床カンファレンス（皮膚科病理スライドカンファレンス、がんセンターボード、救急症例検討会）に週1回以上参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来 検査 カンファレンス	病棟 褥瘡回診 検査	手術 病棟総 回診 入院カンファレンス	病棟 検査	病棟 外来 検査 カンファレンス		

※日直、宿直は2～3回/月を予定

**静岡市立静岡病院皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科病理スライドカンファレンスに週1回以上参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病

院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	検査 病棟	検査 病棟	手術 カンファレンス	褥瘡回 診 病棟回 診	検査 病棟		

**静岡済生会総合病院皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回程度筆頭演者として学会発表を行う。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 病棟回 診	外来 病棟回 診	外来 病棟回 診	外来	病棟回 診	病棟回 診
午後	病棟回 診 外来	外来	外来 カンファレンス	手術	病棟回 診 外来		

**静岡市立清水病院皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、検査手技、手術法を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンスに月1～2回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に4回以上筆頭演者として学会発表を行う。学会発表症例は指導医指導の論文作成する（日本語／英語）。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナー、地域開業医との合同勉強会等に積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来	病棟		

午後	手術	カンファレンス 慶應カン ファレンス	手術	外来	手術		
----	----	--------------------------	----	----	----	--	--

※宿直は1～2回／月を予定

#### 富士宮市立病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	病棟回診※	病棟回診※
午後	病棟手術	病棟外来	病棟手術 カンファレンス	病棟褥瘡回診 予防接種	病棟手術 カンファレンス		

※日直・当直（小児・産婦人科以外を2名で担当）は4～5回／月あり。

※土日の病棟回診処置は当番制で担当する

#### 富士市立中央病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟手術	病棟外来	病棟病理 カンファレンス	病棟手術	病棟外来		

#### 沼津市立病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	手術 病棟	病棟 外来/検査	病棟 検査	病棟 外来/検査 症例検討会	病棟 検査		

#### 静岡医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟/検査	病棟 外来	病棟/検査	病棟/検査 症例検討会	病棟/検査		

#### 杏林大学医学部付属病院皮膚科：

指導医の下、数ヶ月ごとに外来担当、病棟担当に専従し研修を行う。病棟担当時にも特殊外来での研修は適宜行い、より専門性の高い知識の習得に努める。

外来：主に初診医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。一般診療は勿論のこと、各種特殊外来（腫瘍外来、アレルギー外来、毛髪外来、光線外来、発汗外来）にも陪席し、研修する。重要症例では皮膚生検を行い、毎週の病理カンファレンスにて発表し評価を受ける。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持

ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

他科と連携した症例検討の機会として、悪性腫瘍症例検討会があり、領域を超えた専門家のディスカッションにより治療方針を決定する。抄読会では1回/月、英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表（外来担当時）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	特殊外来 (腫瘍/アレルギー-外来) 生検・小手術	特殊外来 (毛髪外来) 生検・小手術	特殊外来 (発汗外来) 生検・小手術	病棟・教授回診・病理カンファレンス	特殊外来 (光線外来) 生検・小手術		

研修の週間予定表（病棟担当時）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	病棟	病棟	病棟	手術 病棟	病棟	
午後	特殊外来 (レーザー/悪性腫瘍・アレルギー-外来)	特殊外来 (毛髪外来)	特殊外来 (手術)	病棟・教授回診・病理カンファレンス	手術		

**京都大学医学部附属病院皮膚科：**

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 回診	病棟 病理	病棟 カンファレンス 回診	病棟 手術	病棟 手術		

#### 横浜市立大学附属病院皮膚科：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、全身療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理および外来患者カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/週 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診・病棟 カンファレンス  外来/病棟	外来/病棟	病棟/手術	外来/病棟	外来/病棟		
午後	外来/病棟  手術	病棟  病理・外来 カンファレンス 抄読会	手術  研究カンファ レンス	病棟/外来	病棟カンファ レンス 病棟		

#### 東京女子医科大学病院皮膚科

(外来と病棟に分かれて研修を行う。)

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。毎週の病理カ

ンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

**病棟**：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。

年 3 回の症例検討会で、症例の経過報告と考察を行い、評価を受ける。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

### 研修の週間予定表

外来：

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
午後	外来	生検・手術	外来	生検・ カンファレンス	外来	

病棟：

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟	病棟	病棟	手術	病棟	病棟
午後	病棟	病棟	病棟	手術・ カンファレンス	病棟	

\* 宅直は 4 回 / 月を予定

### 近畿大学病院皮膚科：

**外来**：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

**病棟**：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では 1 回 / 月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	回診	外来	外来		

		手術			手術		
午後	病棟 外来	病棟 病理	病棟 外来 カンファレンス	病棟	病棟		宿直※

※宿直は1回／月を予定

#### 洛和会音羽病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 カンファレンス	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術	病棟		宿直※

※宿直は2回／月を予定

#### 大阪府済生会野江病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚科臨床、処置、手術法を習得する。他科との院内連携として院内褥瘡回診勉強会に毎週参加する。病院が実施する医療安全講習会や感染対策講習会に定期的に参加する。地域医療の勉強会を熱心に行っており、紹介患者の経過報告や連携患者の対策など地域連携を学ぶ会合に積極的に参加する。また、皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 褥瘡回診	病棟 生検	病棟 手術 カンファレンス	病棟 外来処置	病棟 外来処置		

※宿直は現在のところ皮膚科医は免除されている

土日は週休2日であるが、国民の祝日は開院しており通常業務を行う。

### 京都社会事業財団 京都桂病院皮膚科：

指導医の下、市中病院の勤務医として、外来/病棟診療、処置、手術法を習得する。病理医とのカンファレンスは月1回程度あり、症例検討を行いながら学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心 褥瘡回診	病棟 手術・生 検・紫外 線治療な どの処置 中心	カンファレンス ※	

※病理カンファレンス 1回/月を予定

毎朝夕に皮膚科入院患者の回診

### 京都医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法や、皮膚科医として必要な診断力と診療技術を習得する。カンファレンスで症例検討を行い、症例についての理解を深める。生検症例はすべて病理カンファレンスで直接所見をよむ。複数科で診療する症例は、他科との合同カンファレンスで治療方針を検討し、チーム医療を学ぶ。褥瘡回診に参加し、褥瘡対策を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行い、論文を執筆する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	生検、処	生検、処	手術	生検、処	生検、処		
前半	置	置		置	置		

午後 後半	病棟 回診  合同カンファ レンス*	病棟  カンファレンス	病棟 褥瘡回診  カンファレンス	病棟 病理カンファ レンス	病棟 回診  カンファレンス	当直*	
----------	--------------------------------	-------------------	---------------------------	---------------------	-------------------------	-----	--

\*糖尿病足病変カンファレンス、皮膚形成カンファレンスを各1回/月

※当直は2回/月を予定

#### 田附興風会医学研究所北野病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。院内皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来 手術	外来	外来 (月2回)	
午後	病棟	病棟	病棟 手術 回診	病棟  カンファレンス	病棟 外来	宿直*	

※宿直は3回/月を予定（宿直は不定曜日であるが、その翌日は外来を行わないことを原則としている。）

#### 医療法人医仁会武田総合病院皮膚科：

指導医のもと、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス、創傷カンファレンス（形成外科医、循環器内科医、WOC認定看護師などと開催）を通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会（医療安全、褥瘡委員会等）では、大学教官等に来院いただいております、知識のブラッシュアップを図ることが可能である。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟対診	病棟対診	病棟対診	病棟対診	病棟対診	病棟対診

	処置・手術・紫外線治療	処置・手術・紫外線治療		処置・手術・紫外線治療	処置・手術・紫外線治療	
午後	院内カンファレンス・会議	創傷カンファレンス	アトピー・スキンケア外来	臨床カンファレンス	褥瘡回診	

#### 大阪府済生会中津病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟処置	病棟処置	病棟処置	病棟処置	病棟処置		

当直：救急（外科）当直 1回／月程度の予定

#### 十条武田リハビリテーション病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来		外来	外来	外来	外来	
午後	病棟手術	病棟	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 手術		

#### 高槻赤十字病院皮膚科：

外来患者数は40～50人。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、帯状疱疹、蜂窩織炎、白癬などの感染性皮膚疾患、円形脱毛症、陥入爪など皮膚付属器疾患、また、褥瘡、足潰瘍、

皮膚腫瘍、化学療法による皮膚障害などの診療を行っている。地域の最終病院としての自覚を持ち、どんな皮膚疾患にも、積極的に対応している。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 褥瘡外来	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 カンファレンス ※	宿直※	

※宿直は1～2回／月を予定

※金曜日 PM のカンファレンスは大阪医科大皮膚科カンファレンスに参加(1、2回／月)

大津赤十字病院皮膚科：

指導医のもとで、地域医療の中核病院の勤務医として第一線の救急医療、処置、手術などを習得する。カンファレンス、抄読会を週1回行い皮膚科学全般にわたり学習する。さらに病理部との合同カンファレンスを週1回、形成外科との合同カンファレンスを月1回行うことで病理診断や手術症例についても各専門医の指導のもとで学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文を年に1編以上発表する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーには積極的に参加し、病院が実施する医療安全講習会にも定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 褥瘡回 診	病棟 カンファレンス	宿直※	宿直※

※宿直は1回／月を予定

長浜赤十字病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。週1回のカンファレンスおよび月1回の近隣の皮膚科とのカンファレンスに参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参

加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	処置	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	病棟	病棟	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術		

※病棟管理当直 3～4回／月あり

**兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科：**

指導医の下、週に 3 回の午前中外来を担当し、3 名程度の入院患者を主治医として受け持つ。診療科として重点を置いている重症、難治例だけでなく、通常の皮膚疾患を含めた幅広い症例に対応できる能力を習得できるようにする。年に 2 回以上学会発表を行うとともに、発表内容をもとに論文を執筆する。週 1 回のカンファレンスおよび皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 手術	病棟	病棟		

※宿直は 1～2回／月を予定

**宇治武田病院皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚科医療、処置手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 1 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	(外来)	外来	外来	(外来)	外来		
午後	病棟	病棟	病棟 カンファレンス 抄読会	病棟	病棟		

午前外来は月火水金または月火木金の週 4 コマ診療担当となる。

**日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科：**

地域医療の中核病院の勤務医として、まず電子カルテシステムに習熟し、皮膚科外来診療のエッセンスを会得し、入院診療では代表的皮膚疾患の標準的治療法等を習得する。また診療の補助的業務をこなす中で、各種処置法、手技を身につける。週 1 回の臨床カンファレンスに参加し、肉眼所見、病理組織所見のとらえ方を学ぶ。月 1 から 2 回の最新英文論文の抄読会で学習成果を発表する。褥瘡回診や褥瘡カンファレンスを通してチーム医療に関与する。日本皮膚科学会主催の必須講習会を年 1 回受講し、年に 2 回程度筆頭演者として学会発表を行う。年 1 篇の症例報告論文を執筆する。レセプトチェックを通して保険診療の要点を理解する。近隣で行われる皮膚科関連学会、学術講演会、セミナーなどに積極的に参加して最新の知識を身につけるとともに、顔の見える形での病診連携を実践する。病院内で実施される医療安全講習会、院内感染対策研修会、医療倫理研修会などに積極的に出席する。地域で開催される緩和ケア講習会にも参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 褥瘡カンファレンス	病棟	病棟 カンファレンス	病棟		

※初療室の日当直は月 2 回程度割り当てられ、オンコール当番を月 10～15 日ぐらい務める。

**滋賀県立総合病院皮膚科：**

地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

**研修の週間予定表**

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		

	回診カンファ			病理カンファ			
--	--------	--	--	--------	--	--	--

### JCHO 星ヶ丘医療センター皮膚科：

指導医の下、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス、褥瘡カンファレンスなどを通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会では知識のブラッシュアップが可能である。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置		
午後	病棟 回診カンファ	病棟	病棟	病棟 病理カンファ	病棟		

### 3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

### 4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

### 5) 研修準連携施設

JA 静岡厚生連 遠州病院では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため同施設での研修を行うことがある。また、大学病院および近隣の研修連携施設に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

### 研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。

5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

#### K. 各年度の目標：

- 1、2年目：主に浜松医科大学医学部附属病院皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
  - 3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
  - 4、5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、静岡地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するeラーニングを受講し、自己学習に励む。

#### L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。

2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特に p.15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

#### M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は所定の評価期間内に指導医の確認を受ける。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。異常を研修プログラム責任者に毎年定出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

#### N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要が生じた場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

**○. 労務条件、労働安全：**

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2～3回/月程度である。

2023年5月2日

浜松医科大学医学部皮膚科  
専門研修プログラム統括責任者  
本田哲也